

特定非営利活動法人
TMAT
 (徳洲会医療救援隊)
ニュース

H E A D L I N E	
TMATニュース第6号発行のご挨拶	1
インドネシア西スマトラ州パダン沖地震災害への対応	1
“災害医療活動とロジスティックス”	
日本救急医学会総会・学術集会以て発表	1
駿河湾の地震における対応	1
地域防災訓練でのトリアージ講習会	2
日本災害看護学会発表とその後の再訓練結果	
“ドライブスルー方式を取り入れた災害シミュレーション”	2
ナース最大誌にTMAT紹介特集掲載	2
賛同者の声	2
メディカルラリー参加	2
第4期終了のご挨拶	2

第6号 2009年(平成21年)12月31日発行:特定非営利活動法人TMAT
 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-6-8 ダイニチ麹町ビル2F
 電話:03-3263-8136、FAX:03-5214-6664 ホームページ:http://www.tmat.or.jp、E-mail:info@tmat.or.jp

TMAT ニュース 第6号発行のご挨拶



会員の皆様、ご支援者の皆様に支えられ、NPO法人TMATは会計年度第5期を迎えることができました。平素より活動へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今後も皆様からのご支援をいただきながら、災害時の緊急医療支援と医療が行き渡らない地域での医療の発展に継続的に取り組んでまいります。

第5期が始まるとともに水害、地震など東南アジアを中心として大規模な災害が相次いで発生し、多くの方々が支援を求めておられます。9月30日のインドネシアのパダン沖地震災害では派遣が見送られました。今後も迅速な情報収集を行い必要と判断されればすぐに駆けつけられるよう、「生命だけは平等だ」の理念・哲学の下で日頃より準備を進めております。ご理解いただき、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

徳田 哲 NPO法人TMAT理事長



日頃よりNPO法人TMATの災害医療活動、医療支援活動、国際協力活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。おかげさまで第5期を迎えることができました。

TMATはこれまで様々な地震や津波、水害で被災した地域に医療チームを派遣してまいりました。参加した会員は延べ400名を超えております(TMATの前身TDMATでの派遣も含む)。また、災害医療における基礎を学ぶ災害救護・国際協力ベーシックコースを15回開催し300名を超えるプロバイダーを輩出してまいりました。同アドバンスコースも2回開催され、全国に人材が育っております。

これらの活動はいずれも皆様からのご支援によって行われています。今後も「生命だけは平等だ」の理念・哲学をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

福島 安義 TMAT副理事長

“災害医療活動とロジスティックス”
 日本救急医学会総会・学術集会以て発表

被災地にアクセスする際にはインフラの崩壊や通行規制などにより様々な困難が生じます。しかし航空会社が被災地への渡航支援を行う場合の対象となるのは地方自治体であることが多く、更には活動実績のある組織を支援する傾向があるため、TMATのような新しい組織は利用する機会が少ないといえます。また活動の母体となる民間病院に緊急時用の医薬品、医療材料を在庫保持しておくことや、祝祭日に災害が発生した場合の調達は人的理由によって難しいなど、国内外での災害医療活動とロジスティックスの実態を述べました。

その上で、医薬品、材料メーカーの倉庫から空港へ直接物資を搬入するといった柔軟な協力が得られたことや、現地で医療チームが効率的に資材を活用できるように物流拠点を設立したことなどの実績も紹介し、今後は輸送においても民間医療機関や新規設立のNPOの物流へのより柔軟な



ジャワ島中部地震時の物資の管理

対応を求め、支援団体としても正確な情報収集と分析によつて的確な手段を確立すべきだと提言しました。

インドネシア西スマトラ州
 パダン沖地震災害への対応

9月30日17時16分(現地時間)、インドネシアの西スマトラ州パダン市西南西約45キロメートルを震源としたマグニチュード7.6の地震が発生しました。この地震により、震源に近いスマトラ島を中心に約13万棟の建物が倒壊し、山間部では地滑りや土砂崩れが発生しました。死者、行方不明者を合わせて約1,200人、負傷者は約3,500人に上り、現在も復興活動が続いています。

TMATは、地震発生直後からTMAT現地会員であるインドネシアのタバナン県立病院と連絡を取りあい情報収集とともに、タバナン病院および日本からの先遣隊派遣の準備を検討し

てまいりました。その結果、タバナン病院はインドネシアの県立病院としてインドネシア保健省からの情報を詳細に得ることができました。インドネシア政府としても、我々TMATが参加した2004年のスマトラ沖津波・地震災害や2006年のインドネシアジャワ島中部地震等、多くの地震被害を経験し被災地への近隣地域からの支援体制を整えてきているとのことでした。実際今回の地震でも、インドネシア東部地区の緊急医療チームが多数現地に入っており、人的には充足しているとの報告を受け、日本ならびにタバナン病院からの緊急医療支援のための先遣隊派遣は見送ることとなりました。なお、余震等も続いており、日々変化する被災地の状況の情報収集は継続しております。



先遣隊(右から志賀、寺坂、鷲巣 志賀と鷲巣はTMATベーシックコースプロバイダー)

駿河湾の地震における対応

8月11日午前5時7分、駿河湾を震源とした地震が発生しました。マグニチュードは6.5で、静岡県伊豆市、焼津市、牧之原市、御前崎市にて最大震度6弱を観測、最大0.6mの津波が起こりました。

NPO法人TMATでは地震発生直後から情報収集を開始しました。静岡徳洲会病院に被害はなく、地震による救急搬送者もなし、通常業務体制が敷けることがわかりました。

同院から先遣隊3名が6時45分に救急車にて出発し、静岡市内を巡回して視察を行いました。市内に大きな混乱はなかったため、続いて最大震度を観測した伊豆市、焼津市、牧之原市などの災害関連部署に電話にて被害状況や緊急医療の発生状況の確認を行いました。その結果、いずれの地域においても現地の医療機関で対応が可能とのことであったため、10時30分に情報収集活動を終了しました。

地域防災訓練でのトリアージ講習会

村山 弘之(湘南外科グループ 静岡徳洲会病院 外科)

静岡徳洲会病院のある地域での防災訓練で、災害トリアージの講義と実技指導の機会がありましたので報告したいと思います。
私は外科及び救急医としてSSA(湘南外科グループ)に所属している縁で、スマトラ島沖地震やジャワ島中部地震にて活動させて頂きました。また、TMATベシック・アドバンスコースの受講、スタッフとしてのコース参加を通して災害医療に関わることができ、当院でも災害活動関係の業務をさせて頂いています。



去る7月26日(日)、小学校体育館にて250人程度の市民を対象とした地域防災訓練が行われ、トリアージの講義と実技をして欲しいとの依頼がありました。これまでの講演会等とは違う大規模なものでした。TMAT監事の原野院長(四街道徳洲会病院)にお願ひし、患者用メイクのために2人の支援を頂き、患者役を12名設定して当院職員にもボランティア参加を頂きました。
ベシックコースを参考に1時間ほどの講義と実技を行いました。講義では練習問題として、画面上に患者の写真を10例ほど映し、挙手でトリアージをしてもらう形をとりました。その後、各地区町内会の代表者の方が実技を実施しました。講習は無事終了し、講習後のアンケートでも非常にいい評価を頂き、やつてよかった、また参加したいといった感想を頂きました。
今回このような経験をさせて頂き、自分の災害医療活動にも非常にプラスになり、また訓練の大変さも実感し今後の糧にもなりました。こうした活動ができるのはこれまでのTMATでの経験があるからで、またその経験が現在の私自身の災害医療活動に寄与していることは言うまでもありません。

日本災害看護学会発表とその後の再訓練結果 ドライブスルー方式を取り入れた災害 シミュレーション(大手メディアも注目)

荒尾 修平(四街道徳洲会病院 看護師)

新型インフルエンザが世界的に流行しつつある中、TMATアドバンスコースの実技訓練の一部として行った「発熱外来シミュレーション」について、日本災害看護学会(8月8日、於・神戸)で発表しました。同会は1995年の阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件発生の際に浮き彫りになった災害看護における知識体系の不足を課題として1998年に発足、防災から長期的看護を含む様々な活動を行い今年度の年次大会で第11回目を迎えた。当時既に新型インフルエンザ患者が多数発生していた地域ということもあり発表への興味、関心は高く感じられた。
シミュレーションでは、感染拡大を防ぐために発熱外来と般外来を分け、発熱外来を当院に隣接する屋外駐車場に設置した。駐車場では歩いて来院される患者と車で来院される患者の2つの流れを作り、それぞれのトリアージエリアに医師と看護師が待機し、体温と呼吸数、原疾患などに従い重傷度を振り分けるフローチャートを用いて入院が必要か自宅療養が可能かを決定していた。

特徴としては、車で来院された患者で自宅療養が可能ならば車から降りずに受診から外来会計までを済ませられる斬新なドライブスルー方式を取り入れた。患者と職員が接触する時間を極力短く、かつ距離を遠くする配慮を行った。
反省としては、①患者との距離を保ちながら明確な意思疎通を図るために看板や図入りの資料を準備する。②より早急的確に多くの患者に対応し、重症患者を優先的に搬送する。③会計や薬剤処方間違いなく管理したりするため、情報を整理し伝達するポイントを定めたチェックリストを作成する。等々があげられた。

この経験を踏まえ種々の問題を改善したマニュアルを基にして、8月29日、四街道徳洲会病院とTMAT共催の「新型インフルエンザパンデミックシミュレーション訓練」を、四街道徳洲会病院で再度実施した。同院では更に感染委員会を中心に流行段階をパターン化したマニュアルも作成し、あらゆる想定に対応できるようにした。
当日は朝から残暑が厳しく、病院職員のみならず地域住民の方も参加され本番さながらの緊迫した訓練となった。

尚この時期は新型インフルエンザが拡大の兆しを見せていたため世論の関心は非常に高く、この訓練は大手マスメディアのNHK、朝日・毎日新聞から取材を受



発熱外来シミュレーション

けることになった。NHKは当日午後6時45分の首都圏ニュースで放映、朝日・毎日新聞も翌日朝刊で大きく報道した。患者役として訓練に参加した館山市の看護師山崎宏和さん(38歳)は朝日新聞の取材に対し「普段はインフルエンザの脅威を感じることがないため、実際に起きたらどんな行動をとってよいか不安だった。こういう取り組みは日本中に広がってほしい。」と、またNHKの取材に対し「TMATメンバーの辻川医師は「早いテンポの対応が必要で、本当にパンデミックになればもろとすごい、日頃からの訓練が必要と強く感じた」と語った。このような大きな反響を呼んだことは日頃の地道な研鑽、訓練の大切さを改めて認識させられると同時にTMATの評価を層高めることになったと思われる。

ナース最大誌に TMAT 紹介特集掲載



エキスパートナース12月号で巻頭2ページにわたり特別レポート「独自の災害医療支援を行うTMATの取り組みについて」が掲載された。誌上では四街道徳洲会病院の原野院長他TMAT主要メンバーが国境を越えた災害医療支援の状況、医療職以外の方の現地での役割、災害救護に必要とされる資質、被災地支援以外のTMATの取り組みなど広範囲に熱く語っている。沖野副看護部長は「TMATではチームの能力を最大限に発揮できるよう、平常時もさまざまな訓練・講習などを行っている。そのプログラムの最大の特徴は、「医師・看護師以外の職種も一緒に受講出来る内容になっていること」と広く門戸を開いていることを強調している。

メディカルラリー参加

11月8(9日)「第2回千葉県メディカルラリー」が行われ四街道徳洲会病院からTMAT会員の田代善彦医師と宇野謹子看護師が参加した。メディカルラリーとはトリアージ、状況把握、情報伝達能力を点数評価する競技である。1チーム6人(うち救急隊員4名、医療関係者2名)の12チームが日頃の技術を競い合った。「何時も当院に患者さんを搬送してくれる救急隊からのお誘いで、万全の事前勉強で臨みました」(田代医師)がシビラーな状況設定にてこずる場面もあり、例えば不穏状態の人に駆け寄るのはNG、まず救急隊の安全確保が先など実際の事例出題で救急隊の活動は想像以上に大変だと実感したようです。



競技参加で救急隊との連携を深化

第4期終了のぞき挨拶

日頃よりTMATの活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

おかげさまで第4期会計年度(平成20年7月〜21年6月)の事業報告、次年度計画は理事会、社員総会で承認され、只今第5期に入っております。

第4期は幸いTMATが出勤を要する大災害はなく、人材育成研修や救護訓練が主な事業となりました。研修では国際災害救護ベシックコースを6回(受講者147名)、アドバンスコースを1回(受講者数21名)開催いたしました。

会員サービスとしてはTMATニュースを2回発行しました。ニュース発送の際にはお礼状と併せて会費納入のお願いを同封しました。広報体制としてはパンフレットを刷新し、特に英語併記を加えました。またホームページ上では活動理念、事業報告、研修会案内、TMATニュースの全文掲載と非会員の方にも注目していただけるように務めました。こうした活動の結果会員数は正会員311名(前年比27.7%)、個人賛助会員335名(同16.0%)、団体賛助会員33団体(同87%)と個人会員を大幅に増やすことが出来ました。

第5期は引続き災害支援に重点を置き、課題の団体会員の増加策を講じて着実に活動してまいります。会費は毎年お納め最後にTMATは年会費制をとっております。会費は毎年お納めくださいますようお願い申し上げます。

最後に、ご支援を頂き、誠に有難うございます。ご支援を頂き、誠に有難うございます。

賛同者の声



多大なご支援を頂いている賛同者の方よりコメントをいただきました

鈴木 幸男
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社
専務取締役営業本部長

弊社は代謝・内分泌疾患、特に糖尿病の治療に特化したデンマークに本社を置く世界的な製薬企業です。現在、糖尿病のインスリン治療にあたっては患者様の生活の質(QOL)の向上に寄与しているという自負を持って活動し、今後もすべての糖尿病患者様の治療について価値の高い製品の開発と提供を心がけております。

「生命だけは平等だ」の理念の下、不慮の災害等多くの原因で健康な生活を脅かされた方々のために迅速に現地に赴き活動されているTMAT様の心意気に感じ、微力ながらこの度お力添えをさせて頂きました。今後のTMAT様のますますのご発展を祈念いたしております。